花の都
歌舞妓

年代記

初編

貳

津田文庫
文庫1
1767
2

早稲田大学図書館蔵書

坂東又二郎

猿若
山九情門

鈴木三四郎

仰しゃ。都て仰者ハ其流の不同ありて耳をそばだてること肝要なり。

此年お七廿七回忌吉之道公いそ比老年也。天和の初地蔵

一三躰ハ建立ありしとかや。今年二月之日。和実丹前ねしとも

あらしの名人元祖中村七三郎終る。心鏡院杏實日映本亦

法恩寺中 同六翌年 二代目團十郎。山村座にて はんせの雲雀山

久米の八郎の役をぐさ賣のせり吸大でゝ世とろい芝居四軒みそ

立者役出湯ふかのくぐせり吸有しぶ。つとなく捨りしを宇平郎

艾賣のせり吸大尚アくまで。江戸中子供すで足をまの仰る淫艸

門跡前ゟ艾賣見世出て。團十郎の人形を看板とし。足元祖

はして今も残るり。顔見世山村座にて。團十郎そぶの五郎の役と

始めて動ゟ大尚り。嵐曽我の狂言又翌年も勤一所前ゟ

010190605502

宮崎清吉

ぢゝ久内

山脊小太夫

劣らぬ大入なり。三芝居ともに曽我の狂言を仕組。その度毎ふゆまでも大入を。是より〓て春狂言そろと定る。中村座にて嵐義代〻之丞〓り〓〓お七の役にて大當〓。お七が墓に小石川きすぐや町。南縁山圓泉寺。法名に秋月妙榮。天和二壬戌年三月廿九日。とあり。此付芝居より施餓鬼供養をとらぬされば今の世まで。お七の役勤る者に墓参をとゝや。

同七寅年　園十郎始て鳴神上人の役大当。十二月大舞ともに新焼。宝永八年五月七日　正徳元卯年　此年春より。二代目七〻郎初年　同巳年　森田勘弥五代目ふ成。

同三癸巳年　山村座　花籠愛護櫓　より園十郎始て。あげまきの助六大当り。此をけ六の狂言大坂ふ第五助六といふ者。

坂東又九郎

山下半左衛門

元禄十二寅年　改名　元祖　市川団蔵　これより
市川段之助

けんせい総角と公中代世話狂言あり。是を洗〻て。荒川屋の助六といふ男立ふ取組。又元禄の比。江戸新吉原。三浦屋の総角といふ今盛の太夫ふ寛活の客通ひ〓と有。その比男立髭の意久を取入彼是を仕組〓ものゝ。といふあれど非なり。○五代目市川白猿曰都大夫一仲浄瑠璃ふ第五助六心中といふあり。猶の外流行るふ随て。又元禄のこと。髭の意休といふる揚客の匹を取入荒川屋の助六といふ男立の元吉原へ通ひ〓ると。今あげ巻よ仕組て。祖父園十郎。俳者津打治兵衛と相談ゆて作り。狂言〓とかや。滅よ立方面白。幕明よ花丸なる廓の美〓をこせ。契情の花中。江戸節浄瑠璃ゆて客い立流る羽織衣裳の意久。ちゝ髭ゆ髭ふ

香を炷。大ぜい連ての上。佐の奴れ朝ゞ尾せん年。又あげまきのなまゝ人の道中。森蓋一面花ゆゝなれ丙へ助六ゞ長小袖ゝ紅裏。下に浅葱の金垢柴の浄巻傘。さての風情。めくたいのせり吸すんしかんゞ。さてふ門兵清ゞおひ三。白酒賣の和ゝゆ美人の紙衣ゝ友切九の没義ゞ。実説をあひ。助六あげ巻ゞ。ゆ是事も。ちつくなせて。書かけいく。かゝひの老やゞく。ゆて多ひをゝり。ゝ多久を殺し。友切九を取久と追ゝとしてあきる丙ゆし。滅ゝ見物の目と繋ぐ事。古今の妙他といゞ。近松門九清つゞ曰淨るり九作ゝ文字に書。狂言かぶきゝ絵ゝ出べ。といふゆ。宜哉未の世ゝ至りても此狂言市川代〻の亀鑑とゆ。

○馬馬曰万亀助六心中ゝ浄瑠璃ゝ延宝六戊午年大坂山本

土佐掾座ゆて都太夫一中語始め。江戸ゆても流行ゝとゆ。江戸ゝ狂言の節。衣装を色。自分ゝも其通りの形ゆて。吉丙ゆ。ゆて。先ゝ九ゝ三ゝのゆし事ゝも。今助六と唱ゝ。大通といふ。始ゝ彼是ゝ実説ゝ述ゝるゆ。正徳宝永の比ゝゝ年暦の隔り事多けれ。愛ゝ漏て。○花川戸の助六の墓ゝ浅草新谷越易行院ゝ有。といふ人ありけれ。予是を尋問ゝ丙院ゝの日年〻好夏の人事ゝ。助六の墓。當寺に有と。文伯ゝ丙やと尋ゝるといふ。元来此寺ゝ世へ浅草竹門の辺ゝ有。今ゝ世浦となり。商丙ゝ引移ゝ。付。金縁のゝものゆ。

成しや。又度〻火災あて過去帳も焼失し。古文書も且方形べきものしもなし。と答る故。その侍らちるゝ。付ふ文化四卯年の夏。院主尋まゐりの人〻。我近比入院せし故。ある人ふ問ふ行ふ尚寺へ出入の尼官ありて此者の親八十余にて終る。其親より又聞し侍人とて兼る。助六ハ花川戸の男にて住ハ今戸辺長屋とやゆうれよし。所の石ハ奥の古塚の中ふ有。とゝ〻えたり。年号ハ百五十年余も成べしと云ふ依院主とてもふ行ゝ〻ゝ〻ふ苦しむと石ふ兼慈二年と有。かの翁の霸といひ。予按ふ相蓮助六の世りゆふ。花川戸の助六とも。又総用の助六とも。とふふゆり。されハ二人を取合せる事なるべし

飯空　癸巳二月十一日　西入浄心信士　如此あり

預祈　縁誉禎三信女

兼慈二巳年より今文化七午年まで百五十八年ふ成。按ふ元吉氏の府市の男女の法名一石ふ彫付ありて右の方ふ年月を記さず。一ッ蓮の仏ありて。是を聞伝へる古人の物語正説なること府合と云ふ由なれば爰ふ贅せず。我友白猿のまゝかりせバ侍ひ[illegible]ゝ古墳を尋ね。ひげふ止ゑもいうゞと。いさゝかの香奠を向ふ毛の施主と成しハ。化生のあんだと人も笑ふんか

同巳年七月　善光難波池　本田吉兵ふ国十郎評判ふ。此頃国十郎廿七ゝ歳日の出ふ。同年国五月十日。嵐表付ふ終同十月廿八日。元祖侍九郎終る。本住院道観日法　本所

牛嶋妙泉寺にあるじを殘さと貞享元年隱居して奴丹なり。
判左衛門て饅頭をかけぐそ。三ッ蝶ぐう掛。奴丹前奴荒妻朝比奈
小ぐりの茶屋を勤るゆゑ二十年古今の名人上まとらふ

三ッ蝶の光りたるゆゑ町金。式　治洲

同年芳沢あやめ大こん漬の狂言大評判 同四年 二月八日
木挽町山村長左衛門芝居故ありて斷絶。同七月より國十郎
森田座へ出。愛護若の狂言ふ田畑を勵大尚同霜月十三年
ぶりあて中村座へ入り 万民大福帳 鎌倉の權五郎ぐまきに
菊十郎。家任ふ山中平九郎。大福帳へまとをるとこ孫ふく
ちぐ〳〵くと声ゝける狂言のきろけるゆゑ実悪の開山と呼れ
〳〵れ平九郎。親國十郎とせり合し者なれば二代目今年廿七

七月比の狂言ふもまを二ッくと侮り敬初日せり取ぐうりゆて。
〳〵ちろそふうとのひて。帳へまとうけど。甘ゝ府國十郎皆と声ゝ
かけぐそ。さ〳〵りの平九郎。舞臺の間ゝぬけるゆゑ。平九郎
なのゝ〳〵ちろとべのゝドリやといゝ府。ちぐ〳〵くと声ゝけ國十郎生と
又ゝ留の桜ゆゑ。平九郎今〳〵ちろさんとそる赤ちぐ〳〵くと声
をそとハ伊ちぐ母のと腹立紛れよらへ國十郎ちぐ〳〵くちぐ〳〵
とハ母い。府〳〵ちぐ〳〵くと云て。揚幕より出る。流よ平九郎
を腹立紛れ。新虎の手ひのぐく。見物のどよ〳〵声ゝ町の茶屋
ゝ〳〵ぐた。炒ゝ成ことぞとゝふ斗ゝと老人の物語。大入大評判
狂ゝ角饅頭の暫これを始とゝ。されば暫ゝけ若ゝ三度ゝ及ゝ。
今ゝ新見世の吉例となる元祖國十郎暫の始ゝ趙子と赤く

深長袴とくつを。武神巻の素絶えて赦免状をどと持。ぐ〳〵
くと声をかけて出ること。其後大紋の形深新のあ〳〵事
のりと。二代目団十郎工夫して八反の素絶角鬘大きの刀ゆく
出るとゝや市川団蔵は元祖団十郎ゆゑ。白髪あて俵
茂太秀郷沼潼とりて白頭の息見世とゝふ狂言一度ゑ。
その外は皆深立て前髪白の暫〳〵

同五未年 春中山〳〵座

坂東寿ちゞ 団十郎虎蔵永閑が浄るりにて虚無僧の出で。
五郎付字大尚あて。四月より七月まで大入。十五日より時神を出し。
号も大尚ゆり。今年市川蔵蔵子細有て 如此二弁の紋
ゆ一の字とゝり。同六年三月朝日改て **享保元申年** 春中村座。

式例和曽我 付字ゆ団十郎朝比奈ふ大谷廣治。第場〳〵二ぞん目

総角の助六。本名五郎付字ゆ団十郎。浄るりて江戸吉ちゑ。
大評判大當り。 **享保二酉年** 正月九日。三芝居又類焼此比
三階桟敷止む。三月普清出る。中村座 **海道一棟上曽我**
団十郎雇今文七此付沢村宗十郎。江戸へ下り。上下ぞめて
きとして後者ゆ。団十郎ゆ藍絶へ打返り狂言と勤しが。
後ゆ間もなく。大きく者とゝる。今年五月二日。市川団四郎絶。
性譽真了。ト浦川冨吉町。濃川山負徳院正浦寺ゆ
ゝ。と残て。○倍ゑ日市川団四郎ハ元祖団十郎弟子也。
元禄宝永の間ゆ立者〳〵。ゆ付新吉原の花女ふ訓傳。それより通て年数年。互ゑ
夫婦の契約をなして実情の物語ふ古郷をめし合ゆを父べ。宗四郎十九のとれ。
勢列津の驛ゆおいて別れ我が婦の妹ゆり。それと斗て流ゑられ。ちゝぬるゑとて此

年月送りし事の恥しさよと。とく命も捨てんと思ひそれど。又仏を取置宿へ帰り有
合の家財衣類に至るまで不残賣拂ひ。金八十あまりとなりて。吉原へ行方へ
行き。亭主に面談していまだ存命めくん。数年別深さるの殆未までいと此度
出家を業りは我に拾ち。彼いと戈伊勢の國へ別れ。実の妹く。今更畜生同
然のありさま。所詮命を捨んと覚悟。さあば妹も名令てよ所るほどそれゆえ
身上奏拂ひ。今子に足わど拾ふいと。不足あいらん。妹が身を此今子にて身請
のふよ臣下されば。生涯の世渡も。損意なる縁もめぐ。法所付給られと。我いまを
より。せあてに罪障消滅の為。今日出家いとと。其場ふもいて髪を切。洞ふちづみ
頼れば。亭主も是を聞て哀憐。ま迷業引て。彼妹を我親元となり。他へ縁ぢけ
年しけるとや。國四郎に浜川正源寺へ行て弟子となり。妹の方へ不通ゆえ下総の
國行德の寺に住て。出家堅固に。念佛修りみく暮し。付に森田勘弥座一年

役者を人ゆえ下り役者間に合ざることあり。相談區ふなれ中に小賢ゆ者あり。
國四郎道伝のもとへ尋行。いろわを語り。何とぞ再勤のことを教られども諾と夫より
数度通ひて。一ッあに芝居かくの者でも大勢の助ふも相成ぬん。まづて出勤あれ
と頼付ふ。いろみ辞く。されども思遊俗のみ出ぬ此作るふ出ぬ。
夫ゆえ坊主小兵衛のかえり元。先拾ありて。やがて作者相談あり。遠茂武者
盛遠数年して門覚法師の役を勤る。市川團四郎再勤圓生入道と看板を出し
られば。翌日より大入大當あて一年役者とはとる。夫より又浜川の草庵に引籠。多年
念佛唱りて。享保二丁酉年五月二日。大往生を遂しといふ當附の院々昔より
俳人巴と予が知己の友の語をとゝふ記を。
市川團十郎追善。父の恩ふ。英一蜂の画ゆえ門覚の賛ふ。

文えをするとち沼うり蟬の滝　巴中

二代目市川團四郎。その比山中平九郎といひ〜獻役しが。享保六丑年より。團十郎爲子となり。市川宗四郎と改名を。其年。上上の位なりが。享保十一年春の評。上上士トあり。鎌倉長九郎と共に同じ位なりしが。夫より出世人となり。

享保二酉年

霜月宗十郎。森田座へ行。顔見世〈奉納太平記〉天地人筒字のせりふ。團十郎足二度目のちがくにて。篠塚五郎定綱なり。後に中嶋三甫左衛門。大南大入なり。

享保三戌年

正月二日より森田座〈若緑勢曽我〉團十郎うらうら賣のせりふ。自性坊弁吉源のこと。大評判大入足を始として。代〻家の流をなる。市村座へ。嵐喜代三追善をなるが。

（図）

此九月封ぜられ。此せりふ又大入大繁昌を。依て是より封ぜられ。お七が紋所と。三ツ津ともに是を付。されば嵐喜代三を岡山勘左衛門を中興の祖とする。

扨〇侍は日寛文六年。四代目市村竹之丞。寛文九丑年。その捉の門より入り。

大福帳のせりふ

市川團十郎自作

夫大文字は一文字ふ人を始て是大文。二字ふ書して五文財は一人之書り。その一人
とは十吾れ大君をそは[illegible]。[illegible]。[illegible]
又臣下れ一の人一と人との二ッの文字。合る財は大の字。是を君臣和合れ文字紫宸殿
のてらぶんふかうむじめこう涙ふ。おらァめまり涙り〜やァめんまと成る。まて又福と
いふ文字は[illegible]さいをひと讀せ州篇ふ示をとかく。足神の恵を下にあるその理。まろと
はたらあ一口の田と書。其一口とは普天の下。卒土の濱も一口ふ集て家と唱ふなる。
大内山の影見世なり。さて又帳とは巾篇ふなるれは君が万代を志し留む文字
の割巾は包と讀して。神の法度帳人間の整を包む冠をさ外竜先生が志ゑん巾。
おんはいぎちの三ッうどう巾。陶淵明ぐろくぎ巾。その下だれをふ巾。雑巾南京ん縞
三反ぜ。えきん小きん唐音れ。ちぶの内れん酒や。者に云きる唐幸子。胡桃ふ巾
を張三良ふ歌を歌くとうと児づきんは樊噲ふ門を破るかんつみ包とを是と

そうちの悪ふ。ちうちで云を縞ふ巾。大恵柱の礎ふ。ちうと角ら角ふ巾。うどそくの
ときん紙ふ風を。うきふ不換令撞旭大臣の陣魔巾。びんづる老の紙ふ巾。破是
茶灌も打べる。諫報苦ふふして雑おどろうね祀ごと。天下泰平の大福帳紙ふど
百合元弘元年。せの正徳文武両道紅白の梅の咲今茶髪ふ。ろうそくする都ふ是。
洗むけての栗ふ希ふ幕の内より。ろうと出ると陽ござふねいが栗の神も所濃も仏
ぞんの。十六縞の惣巻油。絲塚五郎定綱ふ。大福帳のえんぎ。ろうろうてんろうそう
ろうのほうかい令満足万くぜいたく。云次第。大福帳の都ごせと。ゆく敬てまうす。

諸国徒行て後本所五ッ目ふ安居し。四拾年来ふ佛おとさうれく。今年
十月十日行年六十五歳ゆて大往生をふ逐る。
顯松山安住寺自性院　中興開山權大僧都大阿闍梨竪者法印　誠阿和尚
尚寺ふ何江の木像あり足先年葬壇ふて勤め。西行の貌とを信。独して。今も常念佛

中村勘三郎座
前狂言 酒呑童子

絶えず。市村代々是を修行し。祈願にも定やかなる妓藝の家
に生れその名高く諸人に感ぜぬものなし。
同戌年霜月京四條若女形佐の川万菊中村座へ下る沢村
惣十郎まする出世し。顔見世より市川助十郎。三升屋と改む。
中村座「嫁入伊豆日記」河津の三郎は団十郎。そり立頬髭にて暫
の出富貴の二字のせりふ。眠野五郎に早川伝五郎。糸屋が娘
さんざに万菊。大当りで。市村座は「御前能三鱗」北條時むねに
尾川善五郎。青砥左衛門大谷広治。佐野の源左衛門に三升屋
助十郎。同母に袖崎政之助。異見の所。そのおんなをとられがむつく
するといへバ。お氣がひらきれまするが此顔見世ではめつたに濡る
事でござりませねば。そのうち濡ねといふ浮瓶がわかれたハテ

市村羽左衛門座
前狂言 七福神

家根を汚めん下りましさといふ当りせり也。此節より芝居
尾花おいめんありし事也。森田座は「前九年鎧鏡」に元祖松本
幸四郎鎌倉の権五郎にて撞撞の中よりさかやき髪赤塗して
にて出荒事大評判。加茂の次郎に市川門之助なり。此とき沢村
宗十郎少し出世して。評判記に。

上上 沢村惣十郎 森田座ト有

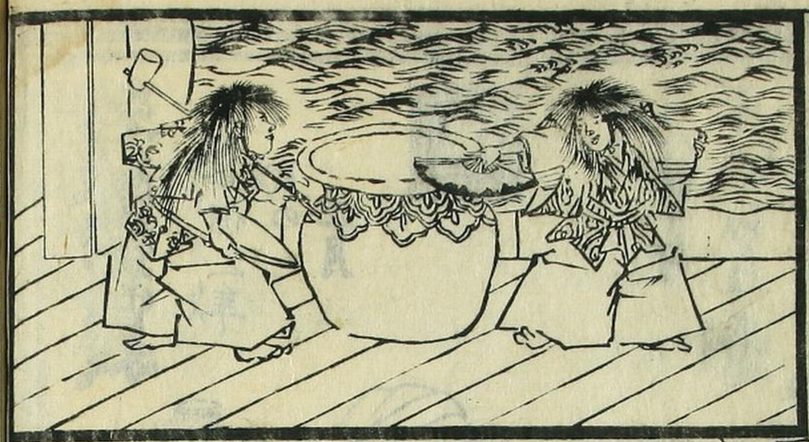
作者いわく 扨々はぎらんじきお名ほに去々年大坂沢村長十郎座へ
善五郎殿といふて出られし男事人と存る伊勢にて喜十郎殿。
お江戸にて惣十郎殿急角の方でも。きつぱりと尻すゑ居られ
ろうらう能らうと存る。先は顔見世評判よふござるぞ。夜京比武則
にて奴ちう義と無し大袖は大服紀をさし。手桶をもちし中間

森田勘弥座 家の狂言 佛舎利

うろ写とおどけ姫にさりとへよいぞ。次ふ武道の法ふき。少しなぐら清取はと。是十勝どのといふさ人トあり。侍よ曰。越十郎ハ生先京家の士官を勤て文学戈力の考く浪人ちて俳優よ入る。されハ十ヶ年たゞざる内。和実立役の名人となれとかや。

享保四亥年 春中村座 **開闢元服そゞ** 五郎ふ園十郎友切丸と名を更渉仲の用帳を頼朝付代よ取組ふる狂言山中平九郎早川侍五郎。二人立義園十郎五郎ふそ。ふ二ッの日記地よ二人の付家ほ。といひ〳〵此付ふ。九月うを雪ふ園十郎たゞこ義の忠七ふて久松ふ煙仲ほしの異見大ゆふり。

同五子年 春森田座 **根元曽我** 鶴が岡の多居建立の所。ふ井面助十郎祐成ふそなんきの場へ園十郎五郎。うるゝ義の次●ふへつぐ



河原崎權之助座
前狂言　猩々舞

うねらう賣のせりふ　市川團十郎

世話親方とゝしたいに立合の中に在のおかもぐりはせう
ぶおいぢをもつて二十里上方相州小田原一在に町をもとゞめられて
まる町人ゞ出ア人お出なさるれば擂子木鳥屋を焼つ呉今は
刺髮いたして赤毋とみのりはさる元祿より大海日まで此
ふ入まする此茶は昔ちんの國の唐くうらうらうふ人つゞ紹へ
まり帝へ茶内の折らう山茶とゆく竜涎用の射さ一粒
いつ冠のさゝ留まり取出さ依てさ名と帝より頂透香とまる
刈人字ふいらゞれさく香と書てさうちんくうさ市に呉今は山茶
猫の対世上ふ山ア。やうぐふ川晋板を出。イヤおごられぬ俵の
さん俵の屏俵のといろくふやせども平ぐさとりくさうねらうを
ぬさ。牧方ゑん紙ぐらり。ぴやおさ立合の内ふ乾海う塩の浜へ

鎗をどりの所作
元祿四未年　水木辰之助始る

湯治ふも出なさるるう。又ハ伊勢ぴ系宮の折らハふぐ門ちぐハ
みきれまさるる山登なぐハ右の方。ちやなれべ左側ハ方うハ棟
ちりてぐこ株玉堂造とふふハ茶ふ相のたうれ及をに敷先
方て系留正ゝ茶ぐこる。イヤ宗茶ふより家行ぢまんぐうて
やても。ぴなハ方に。ハ宗の胡椒の丸香。白川粉私さふハ一粒
なべけて。ぞ。寺の体合ふ貝ふをまぜう先ハ茶ふか年うに一粒古
の上へのせまて腹内へ納まるとイヤどふもいくねハいく肺肝ぐ
すと乎ふ孤て茶員。困ふり寸に中ぐア毎うと中ぎるぐど魚
香木の子麺類の袋合せ。ぞ対方病速切ゆこと祢のどし
扱ぜ茶ふ一の茶ぬふハ香のまるうぬう法ごまぐそぐて迷る。
ひうと左が出りぞとと矢も補もあまうねぐやそりやくく
そうやくまうつて寸ふハ立つてくるハ。あわや咽さたらな香ふ

丹前の所作

かげさしもんぜまの二ツ唇の浮きかいごふ爽よ。あかさたな
そまやらわ。をこそとのわもよろたゝるぎへでよるぎを。ど
かみ盃まの盆米ぼんどぞう。揺蕩つこ豆ぼこと山林書写山の
社傷心こゝめのなまま嘗小米のゐ爪がこもん小米けこなるまかみ
縞子しまを。縞子ちゐちん親ゐ赤清子ゐも赤清親。親ゐるい
子赤へい子赤を清親うるん古栗の木けゐる切に西ゐ。ぐぐん
合羽ゐ半抵のきやとんゐも皮脚ゐ我ゐうきやはゐ皮御ま。ちつ
かゝ袴のちつぞとろびを。汁とりゐつにちよと縫てねゐてちよ
とぶんぞを。かゝら拵子壮石井のら蛇子のゝ蛇子。このゝ蛇子ゐわ
むゝらゐよ来一さのち小佛ゐ。ちけつまぢき子ゐな細溝ゐとちよ
ゐよろゝ京のゐま繕ちゐ長ゐ繕。ちよと四五メ目。ちちや
たちよ茶ゝちよ。ちちよとたちよ茶たちよゝちよ行茶ゐゐゝちゐ茶

市川團十郎 鐘馗出靈像

ちやとたちやゝろゐゝゐゐゐる。高野の山けおとけら小傳理百
足着百ぜん天目百。この拵八百ゐ八百ゐ具ゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ぐゝ。合せて武ゝ馬具ゐゐゐゐゐ。栗栗きゝゝゝゝゝきく栗
合てゐぎこみもゐゐゐ。ゐのゐけゐの長なゐゐゐゐゐゐゐ力
ぞ向ゐのゐまゐゝゐゐゐゐゐゐゐまゐゝゐゐれこそゐのゐ
ゐ胡麻売ゐゝゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ。ゐゐゐ車ゐきやゐれゐゐ。
ゐんぞもゐゐて又ゐゐ。ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
けゐゐゐゐ。たゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

市川團十郎
鳴神上人

こみそこみそと扨子こうつてこちくてこまこせもあつとかてんざ
ぶたんやの川端かな川行ぐやころろんぴつて行ぐあいとな搗
むくこ重ぐろうこち沢平塚大磯じや小磯の宿をセッおくて
早天さうく相州小田原こちん香陰れざくねぜ鳴神の
花のお江戸の色うるらうなれあの花をそお心をもつくぎやつと
しふ毒子遣子あ至るまぐ世うるらうれ四海平和四でんじゃいこんト
きれまつぐくたぐり角世稽ぐせやうくまあうこと杵こうぐちち
ぐちくぐこうくこと弛て今日世の伊達侯こ上ねへ成
ね毒子後ぐるくふねと島せいりぐり東方世界の芸の元メ芸師
ゆまこのも上殺めれこあ散てうるらうへいらつ毒りませねう。

●ラトれつ地　大ざつまぐ浄こりあて毒絶ま て生荒る天南熱ず郎ハ

市川團十郎
をぐき賣

大房九の役神前まて今様高砂の尉を歌ひ其座中白髮
髮を角ぬの髮の実悪評判より巳今年より團十郎評判
記。極上上吉ゝする中村座　祝拜曽我　五郎ふ市川九蔵
兄弟十郎ふ子く大谷廣治和田の義盛二役朝比奈の早がり工茂丸
こ甫左衛つ大磯のこらふ万菊化粧坂のせうく二代目嵐猿代こ大南こ

楪根元曽我　森田座　徒兵衛ふ　市川團十郎　三藤勘太郎

十七意追善重井筒

一富士礼拜曽我　中村座　徒兵衛ふ　大谷廣治　佐の川万菊

金生水重井筒

金鳴賑曽我　市村座　徒兵衛ふ　市村行之熙　袖崎こ輪野

追善二月の雪心中重井筒

享保五年子の春おふさ徒兵衛十七年忌こ付
三座ともわ右名領仍り大当り智仁勇ゝ三徒兵衛ゝ

曽我兄弟対面の図

是新吉原大評判に颯に嵐喜代三を身請なるとて此二代目
喜代三が年に市村座【縫曽我】五郎を市川團十郎鬼王に
幸四郎二役目芝神明おせん一夜に年大好庵が
うとして上下にて油売團十郎安く合のせり弥大当り同年又此
松本七代目錦孝にて評判記に曰猛虎は生れ出るより其まゝ
毛を嘯て風を生ずとのように親父幸四郎殿のゆづるを次て。
今童の中から此上に年出して大肌脱ぎて大太刀さし。親父の
乗り馬の尾に取付てある年。又ある時に飛車もゆらしてまことに
名人の実生なるに似て波をたちち孫の親そなはるゝと誉
たり。鑑定違へぬど是二代目松本幸四郎後に栢莚の養子と
成四代目市川團十郎木場の親玉といひしは是なり【同六丑年】

善光難波ヶ池

春中村座【吉例曽我】五郎に市川升蔵。工藤富沢半三郎。少将
に菊村半太夫。忠信に坂田半五郎。翌年より坂田半五郎へ
親大谷廣右衛門。小ぎり車に乗て赤沢山の角力物語など
まれ他人交ぜの相撲図を行事役よりも大当りなり。市村座を
【鶴亀雛曽我】鬼王幸四郎。翁に傾城南小桜大坂の少将
幼き郎。近江小藤太元祖山中平九郎。せいせん八幡に早川
ちる瀬。五郎は仏の御。工藤に水木竹十郎。此時より山中の
名字に改。色悪といふ名を始とも沢村宗十郎初ての
十郎役勤き郎と工藤夏の拍子ともに出られ。次ぐ
工藤と草摺引の所あり。大評判。芝居の十郎の随一と誉
し位。上上吉 追付惣吉へ去れさるゝとあり此三段江戸

兼鎧愛護櫻

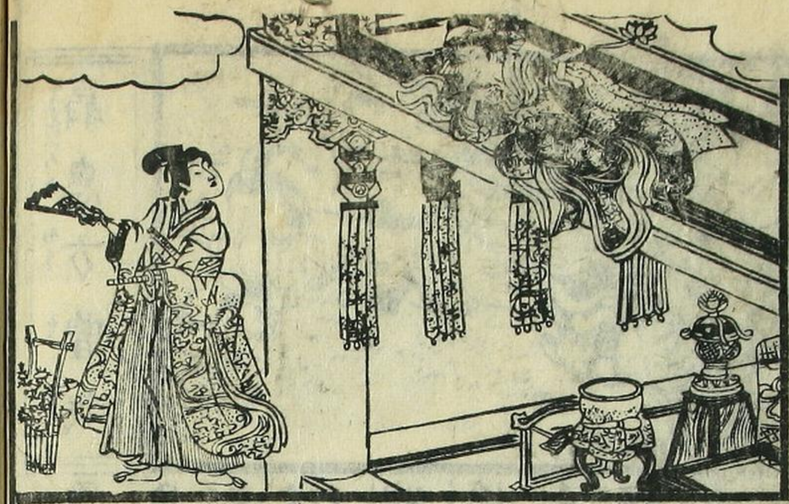
そ。極上上吉の付役者ハ。国十郎。平九郎。女形ハ。てハ浅尾十次郎と二人し。森田座へ（賊末廣曽我）五郎付家国十郎五左ふ小川吾五郎。大磯のとら市川門之助。おゝよ三郎世彩しゐ。ふゝ見五郎四郎。十郎。弁五助十郎。絹根の財面大評判大入。春より十月まで同じ狂言。古今の大當し。同年二月十九日大谷廣右衛門続る。九月十九日山中竹十郎とる。顔見世中ゆら座

（鳥坂城鶴巣竜）関東小六重安に坐十郎。頼家ふ道外方中村傳八郎人共つゆせゝられ。濃状の判をなゝんとする所へ。ちぐ〳〵と声をかけて出。見物へ新入世の口上と云んとする。こちらぐでハ。大ゐ江判なきれと悪人共責かける。又ちぐ〳〵と。こりてハテせてし。ゐい者〳〵だ。皆様へ口上をゝふ内待とゝふと。白眼〳〵ホ日本一

扇惠方曽我

の役者と大評判し。○傳ゝ日山中平九郎鬼女の狂言。今の世までも噺傳ふる。旧年堺町ゑびやの十家といへ者のかゝ〳〵ハ宝永二乙酉年市村座（巣平記姫城）とゝふ狂言。市川団蔵鎌田又八。上下花ゆゝ赤ねり玄の形城の亟宿として居る所へ。櫓の窓より平九郎。十二ひとえ紅の綾ゝそ鬼女の顔を。ぢ〳〵睨〳〵。光景。人間とゝふ〳〵へ。其怖しさふ。女子供泣出をだろ〳〵。とゝ〳〵。夫より。同答ゝとゝや。

脱とせ。詫書なれゆゑ。宝永二年の所ふ記さず。追て弘ぬを。山中平九郎。北上上吉の役者し。宝永二より十七年目。享保六年に。極上上吉とゝる。享保四年。評ぐん記ふ。扨若の面と名どゝ。ちゝふごとく。おとゝ〳〵ゝふ。



契情嵐曽我

この此そんみやけ面の隈取市村竹ゝ恵傳授を受く。後年たゞ〳〵動て大当ゝ。同丑年市村座敵見世（吉例今川狀）仁王ゝ郎松本幸四郎。赤松淳四左衛門ふ。山中平九郎。天の邪鬼の貌ゝ成て入道ゝ仁王ゝ郎足下に踏へ劔とり所怖ゝい山中に松本の根をゝ蘇云。宗十郎ハ源の頼朝ゝ。てまばら飯を焚。國家の政道ゝ足ゝ同じと竈の上り丸ゝ具ふよそゝて。政の言ほどゝ。和実の評ゝ。京大坂ふてゝ昔の名。ちゝと人ゝなく。一年と尻を留て居ゝんざゝ人なりしゞ。不斗ほゝ尚地へ下り。紛年ゝら堀半役者と褒ゝ。せゝ。くゝと此人の藝面白く成と。ゝ比の評判なり。同森田座（蟬丸養老瀧）文珠四郎ふ大谷廣次。ふゝを郎。谷五郎。蟬丸

兼平記姫ヶ城

門之助。逆髪の王子。浦右衛門ゝり。同七寅年春中村座（大竈商曽我）国十郎五郎ゝ。淀五辰五郎ゝり。江戸河東浄瑠理神樂獅子大当ゝ。国十郎。助十郎。破鬼弓羽ゝ抜奏の せり奴。まゝ〳〵くの早口江戸中流行。此ゝ坂田半五郎。お髪釣ひゝ。淀川ゝ。草刈引大当秋狂言（花毛氈三腹帯）半三郎ふ七三郎。ちゝよゝ嵐和歌野。茄十郎ゝ国十郎音物ゝ。のゝ〳〵ゝ大当り。同霜月中村座（豊年太平記）新田義貞ふ園十郎長濤左衛門廣次。さゞみ入道ふ谷五郎。楠正成ふ門之助ゝ市村座ハ（雛家督そゞ）川津ふ幸四郎。朕野ゝ国郎仁義入道平九郎ゝ。宗十郎ハ頼朝なゝ。似ゝ田の与市の役枕抜牧ゝ二ゞん目大当ゝ。享保ゝ年戌霜月ゝり。紛ゝ

顔見世十二段

上上　沢村宗十郎　寅年より五年めの評判記に上上吉
の　沢村宗十郎とあり。同森田座〈義朝福壽海〉源田正清
す五郎。法西八郎。甫右衛門。今王九二代目国四郎。〔同卯年〕
春中村座〔曽我暦開〕市川門之助。弁慶助十郎。国十郎。工人
暦奏かけ合せりふ二番目せりふ富沢門右衛。五郎。五郎十郎
水揚蝶の羽づくひ。とふ浄るり江戸河東勤る。切ふ庚次。国十郎
茅引。瓦根。びど大入大当り。此年二月十五日。元祖中村さはつる
勘三郎百年の壽中村七三郎泰平の綱引とふ猿若の狂
言をはじめ。国十郎。庚次。左右ふ並びに上方迷れ。三日がうち
又物法楽。霜月大谷庚次。大坂嵐三右衛門座へ登る。名題
狂言大佛の三吸。小佛小三郎。国十郎。大評判。この顔見世京

羽衣壽曽我

四條若女形。元祖山下今藤。坂東彦三郎。大坂へのぶれ。
同九辰年　三芝居ともに顔見世狂言のうち。就中。中村座ハ。
松飯漁倉開　山上添内左衛門ふ国十郎。二ん目ふ鐘馗の形
ふて剣をもち。尤の手ふ小鬼を掴みぜりふあつて。家古の大
勢沢打ちふ西ぞさぼりた。家古の大将ぶ。さに嘆ん
ぶ。西郎。松本幸四郎。青砥左衛門。琴ひたおる。名山下今藤。
寅明寺時頼。市川門之助。市村座ハ〈嫁入伊豆日記〉河津
の三郎ふ宗十郎。二ん。祐のぶ。国長ふ五郎。今石九。平九郎ふ
伝ぶ入道。鬼王ふ竹之丞。国三郎。荻野伊三郎。森田座ハ
〈けいせい若蛙子〉弁慶左郎左衛門ふ富沢ぶ三條嫁五郎ふ座奉
ぶ。ふ。當二月三日故人中村七三郎十七回忌ふ当る二代目

成田山不動の霊像

七三色之悪奥州ハ嵐和泉野。都一仲追善浅間ノ嶽市川
團十郎虚言傳。江戸河東仮ヨリ大入大当ヲ。五月十五日
元祖山中平九郎終る。冷山院壽仙。下谷常在寺ハ印
を殺を実悪の開山と未世ニ伝ふ。同秋入船隅田川　宝十郎
左ゑ五郎。本名山田の三郎ハて彫物の巧大評判同中ノ座
霜月新見世大平太郎冥奉鼓　荒御子男三助團十郎。幸四郎ハ
赤松武者ノ助ヲ人間をさ上二句の文ハ渡辺ノ争ひのせりふ。大
当ヲ。細川勝元ハ宗十郎。今能と風流三ツ曳大当ヲ。市村
座ハ万国太平記　国義畑六郎左衛門。義貞ハ行三郎楠正行
に荻野伊三郎。小須伊三郎評判ヲ。森田ハ八顔見世休も

同十已年　玄中村座。團十郎生の田ヲ市ハて。ハ見五郎ヒ郎ハ。

腹壮ハて石投討死ハて土肥の弥三郎の早習ひ。團十郎大評判此と元宗十郎義祐孫ヲ。
秋狂言鎧ヲと鎧ヲ。團十郎幸四郎ヲ合ヲ。同十一年　春中村座　門松四天王　此郎元祖
團十郎。九三回忌追善。ハ神上人ヲ。二番目三人渡辺三人今村渡辺ハ宗十郎。今村ハ
幸四郎ハ。右三役團十郎動る。仮ヨリも上ヲ。名人の茅合大当ヲ。市川門三助新光大評判ヲて
若元方の極上上吉の位ヲ至る。此村小娘方松本七郎。今村娘ハまちの役。きさゝ元娘の
牙習ひの巧。実の親幸四郎ヲの狂言ハ一入長ハ元大評判ヲ。團十郎。うか
ら賣大当ヲ。同四月十六日ヨリ。市村座　鵜奥州源氏　国義次信忠信ハ行三郎。熊坂ハ
若ハ郎。女房おらん早川彩蔵。牛若に荻野伊三郎。弁慶ハ嶽ヲ南北。東光坊の阿闍
梨中村吉岳蔵ハ。二朱ヲと。同春森田座ハ佐々木問苔三頭　佐々木の四郎ハ筒井吉十郎。
和泉の三郎ハ冨沢ハ十三。ハ。岡源太ハ江戸七ヲ夫高綱女房玉ヲ井ヲ初陣ヲ猪狩ヲ。
同三月中村座　大樹勢ぞろ　宗十郎今能。河東の浄ヲりハて。巌の手ハみ横とハ外題の

十郎矣とゝの狂言大当り。同七月 末廣名護屋 團十郎不破の伴左衛門。秩父殿もせりあ。
此とゝ。名古屋山三郎十郎。草履打の所中古の大当。霜月市村座（嵐三五郎ゆ。同
中村座 顔見十二段 團十郎鎌倉の権五郎ゆ。我家門三助ゆ。ぎの場。大太鼓の中ゆて
打破り。生武衡市川笑四郎をきる。荒事は。幸四郎ハ和田の左衛門為ゆの役。貞任が首
を生ゝ。宗任冨沢ゆ三郎。悪平太ゆ任ゆ五郎。赤ゝゆ眼を配て。宗任が行清せん
ぎの所は。二ぐん目團十郎。幸四郎。射の衣装ゆて。赤ゝゆ三荒事ゆり。射の洲湖
珠と浮利めりしハ此射ゆり。宗十郎ハ名の海の流三郎。二ぐん目町人の形ゆて。貞任
ゆ五郎鏡を突かゝる。美盤ゆて清めてゆり。但ゆ大当り。市村座 雛常盤源氏
國新前髪景清。下り狂ゝ五郎流平岳傷ゆて道中をぬゝ。ゝゝのゝふゆ
ふゝと芋ぢゝの目見口上をゝふ。女房白妙津川奇門。後ゝ三五郎狐のゝゝ面の
所作。惣顔見世の一ぐん勝。その年の源判記ゆり。第三九ゝ三甫宮傷。團新と

女人車ゝ竹之丞前髪ゆ。思ゆ老女ゆて入道弁とゝゆ内清盛を祈ゝふゝせ者
と。團新かげ清ゆて。ゝゆゝゝゆゝゝ所。女人大ぐん。森田座（勝時鎧置我）霜月十五日
より顔見世始り。役者不座ゆ少ゝの間ゆゝ休む。此顔見世中村座（大坂より座外方
上上吉 ㊀ 吉屋十郎兵衛とゝの者ゆり。江戸道外方 上上吉 仙 仙石茂助
古中村助五郎ゆ女人剣術の仕ゝ。扇とゝ。
ゆる大浮判とゝゆ。春狂言團十郎。宗十郎。宗我兄弟ゆて。五合の所。見物ゝゝゝ腹ゆ
の大當ゆて。二の巻ゆは。ゝゝ生。